

2025年2月17日

## 2025年研究報告会の開催案内

日本農業史学会会員各位

時下ますますご清祥のことと存じます。

先にお伝えしておりますように2025年の日本農業史学会研究報告会は、日本大学・湘南キャンパスにおいて対面形式（シンポジウムのみ Zoom 中継あり）にて開催します。ついては下記にて当日のプログラムを案内いたします。多数の方の参加を期待しています。

記

**日時：2025年3月28日(金) 9:00-18:00 (受付：8:30より)**

午前：個別報告 (9:00-12:25)、午後：大会シンポジウム(13:30-17:15)、総会 (17:30-18:00)

**会場：日本大学・湘南キャンパス (生物資源科学部 10号館 第4講義室)**

(個別報告・シンポジウムを同一の会場に変更しました。添付の地図、  
もしくは下記の日本大学の URL を参照下さい)

交通アクセス [https://www.brs.nihon-u.ac.jp/access\\_map//](https://www.brs.nihon-u.ac.jp/access_map//)

キャンパスマップ [https://www.brs.nihon-u.ac.jp/campus\\_life/campus\\_map/](https://www.brs.nihon-u.ac.jp/campus_life/campus_map/)

**資料代：500円** (領収書が必要な方は受付で申しつけ下さい)

**【1】個別報告 (9:00~12:25)** (1報告あたり50分 (報告+質疑))

会長挨拶 9:00-9:05

白木沢旭児 (北海道大学名誉教授)

第1報告：9:05-9:55

「冷戦下、地主運動の統一・隆盛・分裂・再統一」

報告者 玉真之介 (帝京大学)

座長 永江雅和 (専修大学)

第2報告：9:55-10:45

「A.D.テアアのツェレ農場とメークリン農場の比較—土壤に着目して—」

報告者 畑岡孝哉 (京都大学大学院)

座長 齋藤邦明 (東洋大学)

第3報告：10:45-11:35

「写本『会津農書 全』の分析と他写本との比較」

報告者 渡部昌平 (京都大学大学院)

座長 池本裕行 (福井県立大学)

第4報告：11:35-12:25

「戦後日本における葉たばこ栽培の変遷と衰退—神奈川県秦野市を事例として—」

報告者 清代ひとみ (東京農工大学大学院)

座長 坂井教郎 (鹿児島大学)

(昼休み：12:25-13:30)

**【II】シンポジウム (13：30～17：15)**

**テーマ：「農業生産のジェンダー史」**

\*シンポの各報告タイトルは仮題です

司会

藤原辰史 (京都大学)

趣旨説明：13:30-13:40

岩島 史 (京都大学)

第1報告：13:40-14:20

「植民地朝鮮「農村男子青年」のポリティクスとジレンマ—1930年代の農業生産と戦時動員、その表象をめぐって—

報告者 小谷 稔(日本学術振興会・東京大学)

第2報告：14:20-15:00

「戦没者世帯における農家経営：農地改革と小作地引き上げ」

報告者 五十嵐英梨香 (一橋大学)

第3報告：15:00-15:40

「標高1300mの労働争議：戦後高冷地季節雇の抵抗とジェンダー化」

報告者 飯田悠哉 (愛媛大学)

(休憩) 15:40-15:50

コメント1：15:50-16:00

小島庸平 (東京大学)

コメント2：16:00-16:10

都留俊太郎 (中央研究院台湾史研究所)

質疑応答 16:15-17:15

(休憩) 17:15-17:30

**【シンポジウム趣旨説明】**

人文学・社会科学にジェンダーの視点が導入されるようになって久しい。農業史研究においてもジェンダーの視点を取り入れた分析が見られるが、その多くは農業・農村の「女性」とこれまで女性という性に結び付けられてきた家族や生活、消費といった問題領域に焦点をあててきた。しかしこのようなアプローチは女性の役割に関するステレオタイプを強化しながら、ジェンダー分析をゲッター化してしまうおそれもある。

本シンポジウムでは、農業史においてながら中心論点であった農業生産の領域を、「女性」史ではなく「ジェンダー史」として議論したい。農業生産に携わる人々にとって、「女性であること」や「男性であること」はどのように経験されたのか。そこにはどのような矛盾や差異があったのか。植民地権力の下での社会的位置づけ、世代、家族構成、雇用労働力の地域内および農家経営内における組み込まれ方などによって、その歴史的意味も異なるだろう。農業生産に不可欠な資源である農地、農業労働力、農業技術に焦点をあてた3本の報告を通して、近現代東アジアの農業史をジェンダーの視点から問い直すことを試みる。

**【III】総会 (17：30～18：00)**

### ★懇親会について

報告会・総会終了後、生物資源科学部本館のカフェテリア「オリビア」にて懇親会を開催します。  
是非ご参加ください。会費は 5,000 円（一般会員）・2,000 円（院生会員）を予定しています。

#### 日本農業史学会事務局

office@agrarian-history.sakura.ne.jp

郵便振替口座 00180-9-20117

(連絡先) 〒606-8502

京都大学農学研究科生物資源経済学専攻

比較農史学分野気付

Tel : 075-753-6185(伊藤)、Fax 075-753-6191

## 日本大学・湘南キャンパス案内

会場は「生物資源科学部 10号館 第4講義室」です

### 東京駅から

東海道線で**藤沢駅**。小田急に乗り換え相模大野方面各停3駅9分。**六会日大前**下車。

### 新横浜駅から

横浜市営地下鉄で**湘南台駅**。小田急湘南台より1駅2分。**六会日大前**下車



# キャンパスマップ

